

## あいさつ 理事長



公益財団法人岩手県体育協会

理事長 平藤 淳

今年度も、皆さまのご支援によりスポーツで明るい話題が提供できました。心より感謝いたします。

12月号でもお伝えしたとおり昨年秋の第72回国民体育大会(愛顔つなぐえひめ国体)本大会では、岩手県選手団は8つの優勝をはじめとする好成績をおさめ、今年に入ってから冬季大会でもスケート競技会での3つの優勝、スキー競技会での昨年を上回る入賞と、選手の活躍がありました。これらの成果をもたらした指導者をはじめとする関係各位のご労苦に敬意を表するとともに、チーム岩手にご助力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

ご存知のように、今年は韓国・ピョンチャンで冬季オリンピック・パラリンピックが行われました。オリンピックには、岩手県在住・出身の選手や岩手県企業に所属している5名の選手が出場し、岩瀬麗楽選手(キララクエストスノーボードクラブ・一関市在住・一関学院高校1年)がスノーボードビッグエアで、永井秀昭選手(岐阜日野自動車・旧安代町出身・盛岡南高校卒)がスキーノルディックコンバインド団体でそれぞれ4位に入賞し、世界トップレベルの力を見せてくれました。

また、パラリンピックにも在住・出身者や高校・大学を過ごした選手が5人出場し、狩

野亮選手(マルハン・岩手大学卒)がスキーアルペン座位で5位入賞、そして、阿部友里香選手(日立ソリューションズJSC・盛岡南高校卒業)がクロスカントリー・ミックスリレーで4位となるなど、私たちに感動を与えてくれました。

さらに、ほかの大会で日本一になったり世界一になったりした岩手県に關係する選手はまだまだたくさんいらっしゃって、一昨年・2016年の希望郷いわて国体・岩手大会のスローガン「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」の精神が脈々と引き継がれていると確信しております。

さて、昨年10月に岩手県が「いわてスポーツコミッション」を設立しました。岩手県のスポーツ資源と観光資源を生かし、大会・合宿などの誘致やスポーツツーリズムの推進などに官民一体となって取り組み、交流人口の拡大を図りながら地域の活性化を行うことを目的とした組織です。すでに先行してこのような組織を設立し活動している市町村・広域圏もあり、その成果が期待されているのですが、地域の活性化のためのスポーツの役割が県レベルでも認められているということは、誇らしくもあり大きな責任も感じています。

スポーツの新たな役割の確認を怠らず、新年度に向かってゆきたいものです。